

第7回 第5期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日 時】 平成26年11月18日(火) 午後7時00分～9時00分
【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3階見学者ホール
【出席委員】 阿部迪子 石川洋一 岡内歩美 加藤慎次郎 狩野耕一郎
(敬称略) 木村 浩 迫田洋平 田口 誠 竹下 登 中里陽一
西上原節子 能勢方子 古川浩二 山谷修作
【事務局】 大野課長 齋藤副参事 和地クリーンセンター所長他
【欠 席】 花俣延博
【傍 聴】 1名
【配布資料】
資料1 新ごみ処理基本計画の主な施策(素案)等について

1 開 会

【委員長】

これから、第7回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

2 議 題

(1) 前回会議要録の内容確認について

「事務局より、前回会議要録については、本日机上配布を行ったので次回会議までに内容確認をお願いする旨の説明を行った。」

【委員長】

それでは、議題(2)の①「施策(素案)に対する意見等について」について事務局の説明を求む。

(2) ①施策(素案)に対する意見等について

「資料1「新ごみ処理基本計画の主な施策(素案)等について(事務局の考え)」の内容について説明を行った。」

【委員長】

それぞれの項目に対する委員意見と事務局の考え方が掲載されているが、ご意見があれば承りたい。

【A委員】

資料の「4. 2、(1)の①市民団体の活動支援とコミュニティネットワークの整備・拡充」のところでは特定の団体名を記載することの是非についての意見があり、事務局案では団体名の削除ということになったが、どうしてこのようになったのか。

【事務局】

委員意見として、具体の事業案に特定の団体名が入ることに対する疑問が呈された。事務局でも検討したが、全体のバランスのなかで具体的な事業案に団体名を入れることは避けた方が良く判断した。

【A委員】

「クリーンむさしのを推進する会」は今のクリーンセンターができる際に、市民と市の協働という流れの中で生まれた。市からの補助金などもいただいていた、自分達が企画をして「マイバッグ運動」、「落ち葉の堆肥化」、「生ごみの堆肥化」等一連の活動を行ってきた。その後は、市と共同で計画をたてながら、市と団体の役割分担を通して活動をしていくといった意見書なども提出している。それを受けた形で現行計画には「クリーンむさしのを推進する会」の名前が入ったという事。それなりの経緯があるのであって、特殊な名前が入ったという事ではない。計画の文案でもなく具体的な事業案の所であるので、是非残していただきたいと思う。

【委員長】

他の委員のご意見はいかがだろうか？

【B委員】

本の文章は「クリーンむさしのを推進する会をはじめとする市民団体との共同事業の推進」とあるが、個別の団体名を残すのであれば、その団体に関する説明の記述がないと一般市民は理解できない。そうであれば、逆に団体名を外した方がベストではないか？他の市民団体が市からの補助金を受けていかどうかはわからないが、そこは一律に考えた方が良く思う。

【委員長】

色々な方の意見をいただきたいと思うが、他にあるか？

【C委員】

本市における減量活動において「クリーンむさしのを推進する会」のこれまでの色々な活動は特筆すべきものであったと思う。従って具体名は残すべきであると思う。

【D委員】

書くのであれば、特に中心的に活動されている一団体の名前の記載よりは、そういった活動に取り組まれている団体すべてを記載するか、特定の団体名を記載しないで表す方法が良いのではないかと思います。

【F委員】

一つの団体名のみを書くかどうかという事について言えば、他もあった方が良くと思うが「市民団体との協働の推進」にしてしまったら、事情の分からない人にとっては何の意味も残らない文章になってしまう。歴史や活動内容など一定の線引きをしながら、いくつかの団体名を載せるのが良いのではないかと。

【委員長】

市と協働しながら活動している団体という物が、他にもあるということなのか？

【事務局】

「クリーンむさしのを推進する会」は30年以上の活動歴があり、市の協力関係においてははずせない団体である。ただ、それ以降も、例えば先日武蔵野プレイスで開催した「環境フェスタ」にも多くの市民団体が参加をしており、ごみや環境についての発表を行っているので、そういった団体について記載することは可能であるが、どの団体が記載され、どの団体が記載されていない、という話になると非常に不自然であるので、取扱いは慎重にすべきと考える。

【B委員】

「クリーンむさしのを推進する会」の活動の歴史はわかるが、記載するのであるならば、その歴史の積み上げを明記しないと、ふつうの市民にはわからないので、記載のあり方は皆で慎重に討論した方が良くと思う。

【委員長】

市民のごみ減量活動の中心となって活動してきたことは間違いないが、どのようにすべきだろうか？ E委員、何かあれば。

【E委員】

先ほど、事務局が申しあげたように実績もさることながら、今後も市としても連携・協働してやっていくという事は間違いない。あくまでも計画の作りの中でどのような表現をするか、というところ。市としては色々な団体との連携について、来年度以降組織的に取り組んでいく、という事もあるので、この部分については本日いただいた様々なご意

見を基に、次回会議においてお示しする「基本計画の中間のまとめ案」に記載する文案を作る中で検討したい。

【委員長】

次回会議に具体的な文案が出てくる予定であるが、その際にどのような記述をするか事務局で検討するという事である。他にあるか。

【C委員】

今後のまとめ方について、資料1（「新ごみ処理基本計画の主な施策（素案）等について（意見等）」）の「新計画文案」「具体事業案」について、本日事務局とディスカッションした部分を付け加えていく、という考え方でよろしいか？

【委員長】

委員意見を参考にしながら、事務局の考えも踏まえ、次回会議に新計画案が提出されることになると思う。他にあれば。

【A委員】

第五期長期計画の基本施策の中には発生・排出抑制という物量に関する記述とともに処理経費の記載もある。今回の計画において、排出量の目標値を多摩地域の平均値とするといった目標設定をすれば、例えば処理経費も多摩地域の平均を目指す、といったような削減目標が入っても良いのではないかと思うがいかがだろうか？

【E委員】

経費については、勿論、収集頻度など検討の余地はあるが、資源物のリサイクル関係は瑞穂町、焼却灰は日の出町など、すべて遠隔地で処理しなければならないという構造的な問題もあるので、多摩地域の平均を目指すというような設定は難しい。とはいえ、市の予算においてごみ処理経費がかなりのウエイトを占めていることは事実なので、コスト削減は絶えず模索していく必要がある。

【委員長】

処理経費については、自治体のごみ処理状況に応じて一概には比較できないところもある。処理経費の経年の推移で検討するという方法もある。ご意見として承る。

【C委員】

ごみ減量協議会や、クリーンむさしのを推進する会の取り組みとしては、生ごみの堆肥化を熱心に進めていると思うが、資料1（8）資源化推進・施設整備の①のところでの市の

考え方として「②生ごみの堆肥化については、生ごみ堆肥を使用できる畑も少なく、市民の方の堆肥化への取り組みは困難な面がありますので、今後は取組の紹介や小学生を対象とした環境教育などを通じて、持続できる取組を検討します。」とあるが、困難な状況であっても、もう少し前向きな記述が欲しいと思う。

【委員長】

今の問題提起に対してご意見は？

【A委員】

生ごみ堆肥化活動の促進と言う点では、市民農園の中に政策として生ごみ堆肥を使用した枠を優先的に設けてもらえないか、という話を市にしてきた。また、例えば武蔵野の農家にそういった生ごみ堆肥を使ってもらおうとかといった方法も考えられる。このような事については、ごみ総合対策課と役所の他の課との連携も必要。そのような流れを検討するといった文言を入れてもらえないかと思うのだが。

【B委員】

ここでは、生ごみの堆肥化に取り組める人と、そうでない人がいるという事でこのような表現となっているのだと思う。表現の方法として、一つのやり方として堆肥化というやり方がある、というような書き方ができないだろうか。

【委員長】

次回提出される、計画原案での記載方法についての検討を事務局にお願いする。他にあるか、無ければ次の議題②一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗管理について、事務局より説明を求む。

(2) ②施策（素案）に対する意見等について

≪資料2「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗管理について」の内容について説明を行った。≫

【委員長】

計画の進捗管理について、ご意見は。

【A委員】

この会議で実行計画を作るという事になるのか。ある具体的な課題に対して5年間なら5年間の数量目標の入ったロードマップ的なものを作るという事になると、それは答申後に市民会議で作っていくという事なのだろうか？

【事務局】

まずは概念的なものをお示ししている。個々の事業については年度の管理をしていく。協議をする場があるので、個々の事業についてはご意見をいただく中で調整をしていくというイメージである。

【A委員】

「生ごみ」「紙」「容器」といったそれぞれのものについて具体的なアクションプランを立てていく、という必要があると思う。それらについて、ある程度具体的な項目に対する方策をこの市民会議で出すとして、それを個別の課題として展開していくというところまでにはならないと思うが。

【事務局】

目標をたててそれをどのように実現するかについては、当然、市としても課題ごとに個別の方策を対応させていかないとならない。どのような取り組みで減量目標を実現していくのか、という事。どの程度、何年までにどの位という具体的な話になるかどうかはわからないが、具体的な事業というのは当然出てくる。

【C委員】

「ごみ減量協議会」の役割だが、市の依頼により課題を検討する実働部隊と言う位置づけでよろしいか？だとするとこの協議会はかなり強力な組織にしないといけないのではないか。今までは半分課題検討、半分進捗管理というような事でやってきたのだが。

【事務局】

まずは、組織や団体を代表されている協議会のメンバーの方々に、特定の課題についてご検討いただき、解決策があるのであればご提言をいただく、というイメージ。市としては、協議会の体制の中でやっていただける範囲ということに留意して検討をお願いするつもり。本日の市民会議を受けて、次週「ごみ減量協議会」を開催し、これまでの本会議の議論経過を報告し、市民会議の常設化と、協議会の任務の変更についてご意見をいただいたものを、本会議に報告するなりして反映したいと考えている。

【A委員】

具体的なテーマとしてはどのようなものが考えられるのか？

【事務局】

例えば集団回収をどうするか、とか補助金のあり方としてどう出していくのか、といったテーマについて、考え方としてどういった方向でいくのが良いのかといった部分について

では、市がこうしますというより皆様にご意見をいただいた方がむしろ良いのではないかと思う。

【A委員】

「ごみ減量協議会」が課題を検討する際、単なる事務局という事でなしに、市の職員が論議の中に積極的に入ってくれることが望ましい。

【C委員】

どのような課題をとりあげるか、そしてその中でメンバーをどうしていくのか、やれる範囲でやっていく、という事だと思う。そこにおいては市の職員に先頭を切ってもらわないと、課題解決にはいたらないと思う。

【委員長】

いずれにしても、基本計画について成案を得ないと具体的な取り組み課題には入って行けないので会議を進めたい。資料2の進捗管理の件についてはよろしいだろうか。

それでは、議題(2)の③「ごみ処理基本計画の目標設定について」について事務局の説明を求む。

(2) ③ごみ処理基本計画の目標設定について

≪資料3 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の目標設定についての内容について説明を行った。≫

【委員長】

いかがだろうか、ご意見があれば。

【F委員】

ここに示されている674gを600gに減らすという事が、実際にどのような事なのか実感がわからない。74g減らすには例えばこうする、だとか何かないと「チャレンジ600」と言われても自分が何g出しているかわからない中では、どれくらいの努力が必要なかわかりにくい。その噛み砕き方をこそ、この会議の中で検討できたら良いと思う。

【委員長】

多摩地域で最近策定された基本計画というのはどのくらいの目標設定をしているのだろうか？西東京市では毎年1%減という設定である。段々と、減量の幅が縮まってきており、かなり限界に近づいていることは間違いない。ある程度ごみ量が多い場合は、何らかの施策を打って減らせる余地があるが、減量が進むと減量率は縮小せざるを得ない。今回の目

標はなかなか難しい水準であると思う。

【A委員】

目標だが、予測では自然減が約 20 g ということなので 10 年であと 54 g を減らすという事であれば、1 年では一人当たり 5～6 g を 1 日に減らせれば良い。ごみのうち生ごみが 30% とすれば 1.5 g。バナナの皮が約 50 g なので、例えばバナナを食べるのを 1 回やめるとか、皮を天日で 3 日干せば半分になるとか、何をやったら良いかというものが、紙ごみ、生ごみ、プラスチックといった色々なものについてあるので、そういう分類に従って減量やリサイクルをどうすれば良いか考える。リサイクルはコストがかかるので、できるだけ発生・排出抑制でやる、といったことをアクションプランの中に入れていくことが必要。

【B委員】

数字の事は確かにわかりにくい。具体的にこの委員会で作業していくことがむずかしい部分を受けて、具体的な事をやっていくのが「ごみ減量協議会」の役割と思っている。数字の事を踏まえた上で、課題について、生ごみはこう、紙ごみはこう、容器はこう、と具体的に取り上げ、皆で知恵を絞ってごみ減量について提案していく形がベストと思う。

【委員長】

平成 36 年に一人 1 日 600 g を目指して減量するというためには、新規施策が問題になってくる。この議論が中心になると思う。色々な知恵を皆さんから出していただくことが必要になる。具体的な取り組み課題については実績のある「ごみ減量協議会」で検討していただくという形になる。

【G委員】

「クリーンむさしのを推進する会」の活動の一環として、生ごみの水切り実験をした。スイカの皮なども干しておくのと相当量水分が飛ぶという事がわかった。一般的に「水切り、水切り」と言われるが、とても大事な事だと実感した。

【委員長】

確かに水切りにすべての市民が取り組めば、ものすごい減量になる。

【A委員】

紙の事について言うと、A 4 版のチラシ 1 枚で 3 g はある。新聞の折込みチラシをいらなないと言えは 10 g もの減量になる。だからライフスタイルを変えるという事をやっていけばごみは減る。今までのライフスタイルを変えないとか、手間をかけることを拒んでいてはあまり減らない。それを市民にやってもらうには、どのような仕組作りや PR をして

いくつか、ということが一番のポイント。

【委員長】

雑紙等も資源になるという事を認識していない人がまだいる。そこをきちんと認識したとしても、実際に行動に移すかと言うとこれは又別。具体的な行動に結びつく仕掛けを作らなければならない。そういうインセンティブを提供するような制度作りをしていかなければならない。

【E委員】

今、日の出町にある最終処分場に搬入する焼却灰等の減容化計画の策定委員をやっているが、今の計画が目標まで減量できないことが明らかになっている。先ほどの委員長の指摘の通り、多摩地域のごみの減量が限界にきているという事が考えられる。その一方で、景気が回復していないせいか、今年度のごみ量は減っている。事業者の委員の方から指摘があったように、ごみ量は景気の動向に大きく影響されるようだ。今後の動向はわからないものの、目標は600gを掲げる決断をした。色々な事業を展開しているが、それは一つの動機付けであり、54gを減らすためには市民一人ひとりのライフスタイルを変えてもらう事に尽きる。多様なライフスタイルの市民に、食べ残さない、余計なものをもらわないなど、ひとつでもふたつでも実践してもらえるごみ減量行動のメニュー化をするなどして、啓発していく。この積み重ねが大事だと思う。今回は、基本計画で大枠を決めた。今後は実施計画の中で具体的にどのような展開をしていくのか考えていきたい。

【委員長】

副委員長、何かあれば

【副委員長】

600gと言う目標設定をしたが、今後それを実現するための実施計画をいかに作るか、また、その進捗管理をいかにしていくのか、という事が一番大切だと思う。実施計画の中にできれば、これをやればこれだけ減るといった具体的な数字を織り込んでいただきたい。今後、どうやって600gを達成するのか、と言うところに議論を集中させて対策を考えられればと思う。実施計画はいつごろ作るものなのだろうか？

【事務局】

実施計画は、条例上定まっております、法的にも求められるもので通常は、3月に作って4月に公表するもの。現状ではかなり大まかな計画の中で、当年度見込まれるごみの排出量を書いたもの。大きな検討をする中で取りまとめることは困難なところはある。一方で個々に示されている事業については把握できるので、数字として出せるものについては極力出

すようにして、個々の事業を管理していく、というイメージを持っている。

【委員長】

本日の議題はこれですべて終了したが、その他として事務局の方で何かあるか。

【事務局】

資料4として本日「第5期武蔵野市廃棄物に関する市民会議 今後のスケジュール」を机上配布させていただいた。次回12月12日の第8回会議で中間報告案について検討していただき、いただいたご意見等について調整したうえで、まとめた中間報告案を年明けに公表し、パブリックコメントを募集する。前回会議の際に第9回の会議を1月中旬に開催する旨申し上げたが、パブリックコメント募集のスケジュールおよび、委員の皆様の日程調整の結果、第9回については2月18日（水）に開催することに決めさせていただいた。最終回は3月上旬を予定している。

【委員長】

それでは、議題はすべて終了したので、本日はこれで終了とする。

以上